

安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名 AU-FR、AU-F
製品の種類 ダイヤ研磨フィルム
用途 研磨作業に使用
会社情報 会社名 株式会社ノリタケコーテッドアブレーション
住所 〒470-0206 愛知県みよし市蒔生町下永井田20
担当部門 新研磨材部
電話番号 0561-32-2235 FAX番号 0561-32-2119
作成日 2010年5月13日 改訂日 2014年7月8日
整理番号 WAD1001

2. 危険有害性の要約

危険性 : 危険性は極めて低い。
有害性 : 有害性は極めて低い。
環境影響 : 環境影響は極めて低い。

[GHS分類] (構成純物質について)

該当しない

[GHSラベル要素] (構成純物質について)

該当しない

注意書き

予防策、応急措置、保管、廃棄については、下記4～8, 13の項を参照。

3. 組成、成分情報

物質の特定

単一製品・混合物の区別 : 混合物

使用部成分情報表

名称	化学式又は構造式	号番号(注1)	CAS番号	含有率(%)
人造ダイヤモンド	C		7782-40-3	1～10
樹脂硬化物			なし	1～15
基材(ポリエステルフィルム)			なし	80～95

(注1) 号番号は労働安全衛生法施行令別表第9の「名称等を通知すべき危険物及び有害物」による。

4. 応急措置

吸入した場合 : すぐに新鮮な空気のある場所に移し、必要ならば医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合 : 作業終了後、石ケン水等で洗い流す。
眼に入った場合 : 粉塵が眼に入ったら直ちに清浄な流水で洗眼する。この時強く押さえたり擦ったりしないこと。必要ならば医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合 : 多量の水を飲ませ、嘔吐させる。必要ならば医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消 火 方 法 : 燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。

消 火 剤 : 水、粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス消火剤等。

使ってはならない消火剤 : 情報なし。

6. 漏出時の措置

特になし。

7. 取扱い及び保管上の注意

取 扱 い : 取扱時は、①落とさないこと、②ぶつけないこと、③転がさないこと。

保 管 : 湿気のない所に保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

管 理 濃 度 ・ 許 容 濃 度

名称	化学式又は構造式	C A S 番号	管理濃度	許容濃度 T L V - T W A
人造ダイヤモンド	C	7782-40-3	設定されていない	設定されていない
樹脂硬化物			設定されていない	設定されていない
基 材			設定されていない	設定されていない

設 備 対 策 : 特になし。

保 護 具 : 呼吸器の保護具 : 必要に応じて防じんマスク等を使用する。
 手の保護具 : 必要に応じて保護手袋を使用する。
 目の保護具 : 必要に応じて保護眼鏡を使用する。
 保護衣 : 必要に応じて作業着、安全靴等を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外 観 : 有色, 固体	引 火 点 : -	蒸 気 圧 : -
溶 解 性 : 水に不溶	発 火 点 : -	比 重 : -
沸 点 : -	爆 発 限 界 上 限 : -	揮 発 性 : -
融 点 : -	下 限 : -	分 解 点 : -
溶 解 度 : -	臭 気 : -	そ の 他 : -

10. 安定性及び反応性

安定性・反応性 : 大気中で安定

避けるべき物質 : 知見なし

有害な分解生成物 : 一酸化炭素。二酸化炭素

11. 有害性情報（人についての症状、疫学的情報を含む）

知見なし

12. 環境影響情報

残留性・分解性 : 知見なし

生 体 蓄 積 性 : 知見なし

土 壌 中 の 移 動 性 : 知見なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
行政の許可を受けた産業廃棄物処理業者に廃プラスチック類として処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報：非危険物

航空規制情報：非危険物

国内規制

陸上規制情報：規制なし

海上規制情報：非危険物

航空規制情報：非危険物

安全対策：水濡れ、梱包ケースの損傷に注意する。

15. 適用法令

労働安全衛生法：該当しない

化学物質排出把握管理促進法

(P R T R法)：該当しない

毒物及び劇物取締法：該当しない

16. その他の情報

問い合わせ先：株式会社ノリタケコーテッドアブレーション 研究開発部

電話番号 0561-32-2235

FAX番号 0561-32-2119

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質の数値は保証値ではありません。

危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので取扱いには充分注意して下さい。

MSDSからSDSへ

国内では平成23年度までは一般的に「MSDS (Material Safety Data Sheet : 製品安全データシート)」と呼ばれていましたが、国際整合の観点から、GHSで定義されている「SDS」に統一いたしました。記載内容の変更はありません。